

Shinji Wakasa x Shingo Okazaki Collaborated exhibition 【 a2 】

会期：（前期）2022年8月6日（土）～21日（日）

（後期）2022年9月3日（土）～11日（日）

会場：DIGINNER GALLERY

サウンドアーティスト・若狭真司と美術家・岡崎真悟の共同展を開催します。前期は両名によるライブパフォーマンスを行い、会場で実際にコラボレーションを実現します。後期は映像を交えたインスタレーションを実施致します。

音楽クリエイター/アーティストの若狭真司は神奈川県在住。主に広告媒体、ファッションショーの選曲や作曲、展示会やコレクションムービーなどの音楽を制作、サウンドデザインを行なう。10代より音楽活動を開始。東京都内のライブハウスやクラブイベントを中心に活動する中で、自身の音楽性に於ける静寂性や、より音響的な感覚を追求するため独学で音楽を学び直す。

「能動的に、美的に“聴く”ことへの回帰」

それを促す音作りを標榜し、自身の音楽制作所Hitsuji sound factory.を設立し現在に至る。

大分県在住のアーティスト岡崎真悟は、フリーランスのデザイナーとして活躍した後、画家に転身。画面に擲り書きする随想は様々で、裂いた紙を幾重にも“貼っては塗る”を繰り返して覆っていく。タイポグラフィーのデザインで培ったスキルと趣味のDJの活動もあって、自身が製作するチラシをあらゆる壁や、公共物に貼るといったヴァンダリズムな行為も、現在の描法に繋がっている。

数年前から親交のある二人が、以前から共同で何かできればという願いを、今回幸いにもギャラリーが引継ぐ形となった。企画当初から絵画と音を交えた作品を提案していたが、展示空間に音を嵌め込むだけのインスタレーションな役割ではないことは明らかであった。そこで岡崎の描く現場に立ち会い、若狭が即興で音を奏でる試みをした。二枚の紙（支持体）をじっと見つめる岡崎、足元にはコラージュする大小様々な紙が散乱している。ハサミで切ったり、手で裂いたり、「ザキザキ、ビリビリ」鳴り響く破れる音を若狭がその場で録音するや、拾った音を重複させたり、リバーブかけて立体感を加えたりと、唐突に作品の制作は進行していた。岡崎が鬼気迫った表情で突如画面を擲り書きし出した、鉛筆の芯が尽く折れる筆圧は凄まじく、それに答える若狭のサウンドも迫力を増す。引っ掻き、擦り、愛で、叩く、彷徨いながら、時に交わり、また静観する。一連のやり取りが小一時間続くと、ふと岡崎の手が止まった。

目の前にある作品は無論視覚から認知される訳であるが、若狭の加えたサウンドが色に艶を、筆跡に動きを持たせたことで、知覚からも絵画の情報を得ているようだ。

本展では、そんな二人の共作が“曲”として5曲（5作品）用意され、会場に無数のスピーカーと共にインストールされる。

解体された音源を脳内で編集しつつ作品を鑑賞してもらえたら幸いです。

同展では、LPサイズのオリジナルデザインジャケットに封入した、今作の音源/アートワーク付を販売します。皆様のご来場お待ちしております。



200枚限定オリジナルLPジャケット（12インチ） 価格：¥5,500（税込）
付属品：CD（5曲入り）、アートワーク（3枚）、ダウンロードコード



是非、貴誌・貴社にてご紹介下さいますようお願い致します。ご質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

.....
DIGINNER GALLERY 担当：鈴木宏信

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-11-2

Tel. +81(0) 3 6421 1517 E-mail: contact@digger.com

Web: www.digger.com

営業時間：11:00 - 19:00／最終日17:00 定休日：毎週月・火曜（祝日を除く）